

自家組織による乳房再建とは

広島大学病院 形成外科 横田和典



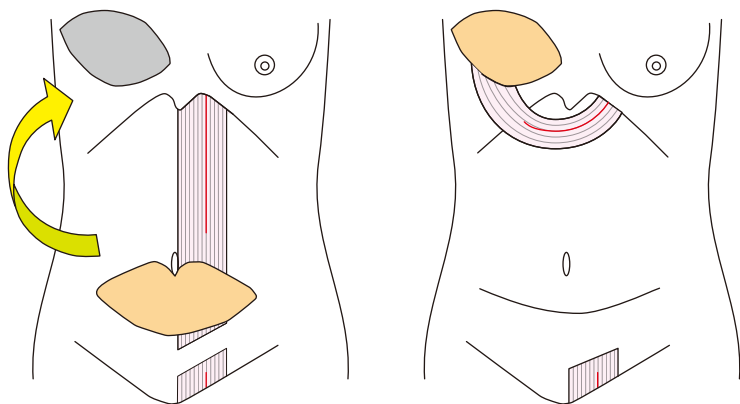
どのような手術ですか？

ご自身の身体の一部の組織を利用して乳房のふくらみを作る方法です。この方法は自分の組織を用いて乳房を再建するため、異物に対して抵抗のある人には良い方法といえますが、健康な部位にメスが入るといった欠点もあります。自家組織による再建方法としては、以下の方法があります。

- ①お腹の組織を利用する方法(腹直筋皮弁術:ふくちよきんひべんじゅつ)
- ②背中の中核を利用する方法(広背筋皮弁術:こうはいきんひべんじゅつ)
- ③その他の手術(遊離皮弁術:ゆうりひべんじゅつ)

腹直筋皮弁術の特徴は、利点と欠点は？

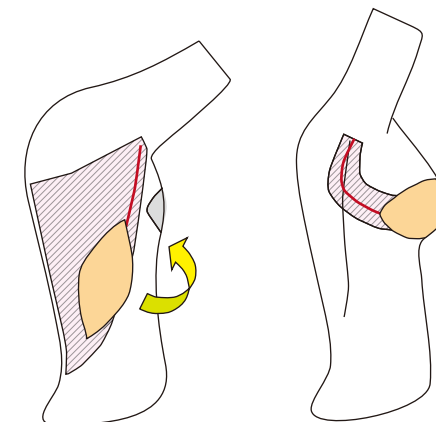
腹直筋皮弁術(ふくちよきんひべんじゅつ)では、腹直筋というお腹の真ん中の筋肉の血液のめぐりを保ったまま下腹部の組織を移動します。下腹部の脂肪を含めた組織を利用して、乳房が作れるこの方法は最も一般的ですが、傷が下着に隠れるとはいえ、大きな傷跡を残すことや、お腹のヘルニア(腹壁癒痕ヘルニア)をまれに起こすこともあります。また将来、妊娠や出産を予定している場合には適しません。



お腹の筋肉と脂肪による乳房再建(腹直筋による再建)

広背筋皮弁術の特徴は、利点と欠点は？

広背筋皮弁術(こうはいきんひべんじゅつ)では、背中にある広背筋という筋肉の血液の巡りを保ったまま背中の中核の皮膚や皮下脂肪を筋肉とともに移動します。お腹の手術を受けた方や、将来、妊娠や出産を予定している場合に適しています。



背中の中核による乳房再建(広背筋による再建)

この方法では傷跡が腋から背中の中核の比較の見えにくい所に残るのですが、背中には乳房を作るのに十分な皮下脂肪がない人も多く、大きな乳房の方には向いていません。また筋肉が縮こまり、乳房が小さくなることも欠点です。

その他の手術(遊離皮弁法)について、利点と欠点は？

最近では、胸部に隣接しない部位から乳房を作る方法も行われるようになりました。大腿部やお尻などから血管を含んだ組織を切り離し、胸部に移動して手術用顕微鏡を用いて血管をつなぎ合わせる方法です。血管をつなぎ合わせると手術直後から組織に血がめぐり胸部で生かせることができます。

この方法を用いると理論上は体中のたくさんの場所が組織を採取する候補になります。しかし、血管が詰まると移動した組織全体が壊死してしまうこともあります。高度な技術を要する、手術時間が長くなるなどの問題点もありどこの施設でも当たり前に行われている方法とはいえません。